

まちの「今」をお届けします



「セーの」で息を合わせてペダルをこぎます



タンDEM自転車について講義



パラサイクリングの魅力を肌で感じる タンDEM自転車体験試乗会を開催

市では、スポーツによるまちづくりの一環として、山陽オートレース場を活用し、平成27年からパラサイクリング(障がい者の自転車競技)日本代表のキャンプを受け入れています。平成30年4月には、一般社団法人日本パラサイクリング連盟と協定を締結し、パラサイクリング日本代表の2020年東京パラリンピック事前キャンプ地となりました。パラサイクリングは、選手の障がいの種類と使用する自転車により4つのクラスに分けられ、さらに障がいの度合いにより分類されます。タンDEM自転車とは、座席とハンドルが2つ並んでいる2人乗り用の自転車。後ろに乗車する人はハンドル操作の必要はなく、脚力に自信のない人や視覚障がいのある人でも自転車走行を楽しむことができます。競

技では、前に健常の選手、後ろに視覚障がいの選手が乗り、息を合わせてペダルをこぎます。

市では、パラサイクリングを盛り上げようと、8月31日、山陽オートレース場で、タンDEM自転車体験試乗会を初めて開催。親子連れなど26人が参加しました。

参加者はまず、パラサイクリングや、タンDEM自転車の構造、交通ルールについて学び、山口県では平成30年4月1日から、タンDEM自転車で一般道路の走行が可能になったことなどの説明を受けました。

講義後には、いよいよタンDEM自転車の試乗。車体のバランスを取ることに苦戦しながらも、2人で風を切って走る疾走感と一体感に、参加者は笑顔を見せていました。